

久呂保山人の足跡

「京都天橋立で発見」

「京都久後生歩先生との交流」

昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫

久呂保山人またの俳号甫天喜^きは、旧久呂保村椽久保北の金井^{いけ}一家の農家に生まれている。生年月日は確認されていない。

惑^{まど}わざる歳のころ(四十歳頃)家屋敷財産等を全部処分し、風呂敷一つで全国俳諧行脚の旅を計画し江戸に旅立った。準備のため、二年余り江戸にいた後、東北青森へ出発。東北、関東、北陸、中部、関西、山陽、山陰、九州鹿児島までの記録が残っているが、いつからいつまでの旅だったかは不明である。

年月日はないが、どこで誰と俳諧をしたかは残っている。文化十一年に全国行脚の俳諧本「はつしぐれ」を、文政元年には俳画本「絵空言」を、江戸の書店から出版している。このほか、故郷赤城山の麓に俳諧仲間と建立した芭蕉句碑、神奈川県立図書館所蔵の「筆蹟と俳書」と追悼刷り物一枚だけが記録に残る、謎の多い人物である。これらの中で、久呂保山人は次のように紹介されているので、原文のまま紹介する。

蒲天喜、久宮保庵、久呂保山人と号す。上毛久呂保の人、行脚俳人、晩年玉川住、溝ノ口宝水追善を営む。

祖翁忌

枯菊や折残したたる人心 蒲天喜
「はつしぐれ」二冊文化十一 芭蕉
句碑建立記念と行脚中諸家の吟詠を集録

「絵空言」一冊 文政元

追悼刷物 一枚

久呂保山人とて孤独な法師ありけり ひとにまづしきをまづしとせず楽しきをたのしむとせずたゞ俳諧を好みて遊歴を事とし東西に跡をもとめず終にことし玉川の辺玉光る露の夕にはかなき一句をのこしてうせぬ あゝこれみつなしの爺とやいはむあゝこれあはれとやせむ
居所のきまりもなしに夕涼 甫天喜
この句は、郷土に残る墓石にも、文政六年癸未五月十九日の中に刻まれている。

今年に入り、京都の久後生歩先生から昭和村役場宛てに、京都天の橋立の墨蹟帖に久呂保山人の句が残されているとの連絡をいただいた。言いようのない感動を覚えた。この京都に残されている句は「ひとまばら降り出す夏の柳かな」久呂保山人。
今後、更に足跡を深めるべく久後先生と交流を図りたい。

地域包括支援センターだより × ハンドメイドカフェ

お花のコサージュのつくりかた

用意するもの



- ①直径8cmの円 5枚
- ②直径6cmの円 1枚
- ③直径5～6cmの円 1枚
- ④コサージュ用ピン
- ⑤綿や布の端切れ
- ⑥直径4cmの円形の厚紙 1枚

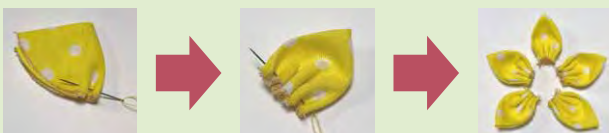


▲きずなサポーターの方々とコサージュを作りました



◀ハンドメイドカフェの皆さんに、コサージュの作り方を教えていただきました

1 花びらを作る



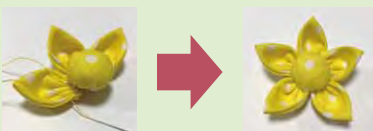
①の布を2回折り、並縫いします。ぎゅっと糸を引っ張り結びます。同じ物を5つ作りましょう。

2 お花の中心部を作る



②の布の端を並縫いし、中心部に⑤を詰めます。糸を引っ張り結びます。

3 パーツを縫い付ける



花びらと中心部を縫い付けます。※5枚続けて縫い付けると花びらのバランスが取りやすくなります。

4 コサージュ用ピンを取り付ける



③の布に④を縫い付けます。布の端を並縫いし、⑥を中に入れます。糸を引っ張り結びます。台座と花を縫い付けて完成です。